【授業科目】ボランティア論　　Theories of Volunteering

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
松本 彩月	１年次 後　期	選　択	1	15	講　義			可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／社会学や社会保障の視点からボランティア活動を多角的に捉え、主体的な活動へと繋げるための知識・理解を深めるものである。 全８回の講義を通して、ボランティア活動の意義・役割、歴史、社会との関わり、倫理、国際的な視点、将来展望などを学ぶ。 近年、高度情報化、グローバリゼーション、超高齢化など、社会の変革が加速する中で、ボランティア活動は、個人や社会が抱える課題を解決するための重要な役割を担っている。 本講義では、様々な分野におけるボランティア活動の事例を交えながら、多様な価値観を理解し、社会貢献に対する意識を高め、主体的な社会参加を促進することを目指す。 進め方／オンデマンド形式で行う。 フィードバック方法／学生からのコメントなどについては、適宜、授業でも紹介し、問題を共有して考えを深める。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①　ボランティア活動の定義、歴史、意義、役割を理解し、現代社会におけるボランティア活動の必要がわかる。 ②　社会福祉制度とボランティア活動の関連性を理解し、ボランティア活動が社会福祉にどのように貢献できるのかが理解できる。 ③　多様なボランティア活動の分野と活動内容を理解し、それぞれの活動における倫理的な問題点や注意点についてわかる。 ④　国際的なボランティア活動の現状と課題を理解し、国際協力におけるボランティアの役割について理解できる
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第１～８回事前学習：テーマに関して、インターネット等で検索し読んでおく。（各90分） 事後学習：新聞に掲載されている関連記事や関連する図書などを読む。（各150分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。
授業計画	第１講　ガイダンス・ボランティアとは何か 第２講　ボランティア活動の歴史と現状 第３講　多様なボランティア活動 第４講　社会福祉制度とボランティア 第５講　ボランティア活動と地域づくり 第６講　国際的なボランティア活動 第７講　ボランティア活動の倫理 第８講　ボランティア活動のこれから 全て 松本
評価方法 評価基準	毎回のコメント提出　40% レポート　60%
教科書	毎回講義時に資料を配布します。　　参考書等　なし
学生への メッセージ	ボランティアを体験してみたい場合は、紹介しますので申し出てください。